



## 新創記念特別展 第3部

## 陶磁器ふたつの愉楽 — 観るやきもの・使ううつわ

Ceramics: Fun and Functional

2010年1月9日(土)～2月28日(日)

根津美術館では、新創開館を記念した特別展の第3部（2009年より年間8回開催）として「陶磁器ふたつの愉楽—観るやきもの・使ううつわ」を展示室1[企画展示室]にて開催いたします。

陶磁器はもともと使うために作られたものでしたが、その陶磁器の美しさを見出し鑑賞する習慣は室町時代、中国美術の鑑賞・鑑識が書かれた『<sup>くんだいかんそうちようき</sup>君台観左右帳記』から読み取ることができます。また絵巻物に描かれた花瓶の置かれた床の場面などからも当時の観賞法が伺えます。なかでも抹茶茶碗のひとつである天目茶碗は高い評価を受け、やがて茶の湯の流行とともに、食事を含めた茶事が行われるようになると料理と器の取り合わせも関心を集めるようになりました。明治時代になると、陶磁器に対する新たな鑑賞のありかたが登場し、唐三彩の<sup>よう</sup>甕(中国で死者とともに埋葬する人形)や<sup>はん</sup>壺、<sup>はん</sup>盤(大きなお皿)清朝や李朝の陶磁が飾って眺めるために集められました。また日本中世の<sup>やきしめとうき</sup>焼締陶磁の<sup>かめ</sup>壺や甕、さらには古代の縄文や弥生土器も、鑑賞の対象になっていきました。本企画展では、陶磁器鑑賞の歴史と使う楽しみの二つの魅力をご紹介します。

## 展示室1 [企画展示室]

さんさいにょにんざそう 三彩女人坐像	中国・唐時代 8世紀
ごさいくじゃくもんせんさんびん 五彩孔雀文仙蓋瓶	中国・明時代 16世紀
てんらんゆうそうじこ 天藍釉双耳壺	中国・清時代 18世紀
ひだすまつくくひかびん 緋櫻鶴首花瓶	備前 桃山時代 16世紀
やきもちもんすはまがたはち 焼餅文洲浜形鉢	備前 桃山時代 16世紀



せいかりゅうほうおうもんめいびん  
青花龍鳳凰文梅瓶  
中国・元時代 14世紀



重要文化財  
きびえそめつけきんさいえがわりどきざら  
銹絵染付金彩絵替土器皿(5枚のうち)  
おがたけんざん  
尾形乾山作  
江戸時代 17-18世紀

## 【同時開催】

他のギャラリーにおいても、第3部特別展に併せ、企画展示を行います。

### 展示室2 [書画]

#### 京派の粋<エスプリ> 円山四条派の絵画

近世後期の京都画壇を主導したのは、<sup>まるやまおうきよ</sup>円山応挙(1733-95)を祖とする円山派と、<sup>よさのぶそん</sup>与謝蕪村と<sup>ごしゅん</sup>応挙にともに学んで一家をなした<sup>ごしゅん</sup>呉春(1752-1881)にはじまる四条派でした。いずれも、写生画風を基礎として、平明な装飾性や文人趣味を加味して瀟洒な画風を展開した両派は、後にあわせて円山四条派とも呼称されました。金砂子のきらめきも美しい花鳥図や愛らしい動物画など、約10件の作品で新春を飾ります。



<sup>なんてんそうきゅうす</sup> 南天双鳩図(部分) <sup>ごしゅん</sup> 呉春筆  
江戸時代 18-19世紀

### 展示室5 [工芸]

#### 茶道具の名物裂・更紗

茶会では、茶入は仕覆<sup>しふく</sup>と呼ばれる美しい袋に入れて茶室に持ち出されます。仕覆は茶入とともに客に鑑賞されるため、桃山時代より、中国の高級な絹織物が好まれてきました。一方伝来する茶道具をおさめた桐箱は、更紗とよばれる色鮮やかな模様染の木綿に包まれています。通常、更紗布包が表に出ることはありませんが本展では館蔵の茶道具に添う仕覆、更紗の組み合わせを付属する名品と共に前期・後期に分け総数約70点を展覧します。



重要文化財  
<sup>ぶんりんちやいれ</sup> 文琳茶入 <sup>めいしらたま</sup> 銘白玉 南宋-元時代 14世紀  
<sup>さらきつみぬの</sup> 更紗包布 インド 17-19世紀

### ホールから展示室3 [彫刻]

#### 仏教彫刻の魅力

ガンダーラや中国の石彫、日本の木彫をご紹介します。



<sup>しめんぶつひぞう</sup> 四面仏碑像  
中国・北魏時代 6世紀

### 展示室4 [青銅器]

#### 古代中国の青銅器

世界的なコレクションを誇る、中国殷周時代の青銅器を中心に、青銅器のために特別に設計された照明とケースでご覧いただけます。



<sup>とうてつもんほうか</sup> 饗養方  
中国・殷時代 前13-12世紀

### 展示室6 [茶道具]

#### 新年を寿ぐ

新しい年を祝う茶会「初釜」<sup>はつがま</sup>には、新春や吉祥にちなんだ茶道具が選ばれます。お正月らしい晴れやかな展示をご紹介します。



<sup>こそめつけこいみほなひけ</sup> 古染付鯉耳花生  
中国・明時代 17世紀

## 関連プログラム

### A. 第3部展特別講演会

規範ときめき—『<sup>くんだいかんそうちょうき</sup>君台観左右帳記』から『<sup>がんかめいぶつき</sup>玩貨名物記』まで

日時 2月6日（土） 午後2時から午後3時30分

場所 根津美術館 講堂

定員 140名

講演 竹内順一氏（永青文庫 館長）

〈申し込み方法〉 参加希望者1名につき1枚の往復はがきでお申し込みください。  
応募者多数の場合は抽選となります。  
聴講は無料ですが、入館料をお支払いください。  
往復はがきに住所、氏名（返信面にも）、電話番号を明記のうえ、  
〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1  
根津美術館「第3部展特別講演会係」にお申し込みください。  
2010年1月23日締切（当日消印有効）

### B. ギャラリートーク

1月23日（土）、1月27日（土） 午後1時30分より約60分間 イヤホンガイドを使って行います。

参加無料（但し、別途入館料金が必要です）定員は先着30名様

### C. 応募企画〈あなたが考えるおもてなし献立〉

展示室1では、初代根津嘉一郎が四季の懐石料理に使ったうつわを来館者にご覧いただき、そちらに盛り付けてみたい献立をお書きいただき、〈あなたが考えるおもてなしの献立〉を実施します。

季節の素材や、うつわのもつ特徴から着想した献立を、自由にお書きいただきます。

応募いただいた方の中から抽選で50組の方に次回展の招待状をペアでプレゼントいたします。

期間： ・ ・ 2010年1月9日（土）～2月28日（日）  
・ ・ 新創記念特別展 第3部「陶磁器ふたつの愉楽」開催期間中  
会場： ・ ・ 企画展示室1  
抽選： ・ ・ 抽選で50名様に次回展「胸中の山水・魂の書」招待状をペアでプレゼント  
・ ・ ※当選は招待状の発送をもってかえさせていただきます

---

## 開催概要

【開館時間】 午前10時～午後5時（入館は午後4時30分まで）  
【休館日】 毎週月曜日（祝日の場合は翌日）  
【入館料金】 一般1200円（1000円）学生1000円（800円）  
\*（ ）内は20名以上の団体料金／小・中学生以下は無料  
【アクセス】 地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線〈表参道〉駅下車  
A5出口（階段）より徒歩8分、B4出口（階段とエスカレータ）より徒歩10分、  
B3出口（エレベータまたはエスカレータ）より徒歩10分  
【住所】 〒107-0062 東京都港区南青山6丁目5番1号 TEL 03（3400）2536  
<http://www.nezu-muse.or.jp>

---

## 広報に関するお問い合わせ

根津美術館 広報 TEL 03-3400-2538 FAX03-3400-2436  
・ ・ ・ ・ E-mail: [press@nezu-muse.or.jp](mailto:press@nezu-muse.or.jp)

# 広報画像 貸出申請書

新創記念特別展 第3部  
**陶磁器ふたつの愉楽** — 観るやきもの・使ううつわ  
 2010年1月9日[土]—2月28日[日]

■ 貴社についてお知らせください

<input type="checkbox"/> 媒体名 _____	<input type="checkbox"/> 貴社名 _____
<input type="checkbox"/> ご担当者名 _____	<input type="checkbox"/> 所属部署 _____
<input type="checkbox"/> ご住所 〒 _____	
<input type="checkbox"/> TEL番号 _____	<input type="checkbox"/> FAX番号 _____
<input type="checkbox"/> E-mail _____	
<input type="checkbox"/> ご掲載・放映の予定日が決まっておりますお知らせください	月 _____ 日 _____

■ 広報画像をデータでご用意しております。ご希望される写真の番号に○を付けてください。

[展示室1 (企画展示)]  
**陶磁器ふたつの愉楽** — 観るやきもの・使ううつわ



【1】  
 青花龍鳳文梅瓶  
 中国・元時代 14世紀  
 根津美術館蔵



【2】(右上)  
 緋澤鶴首花瓶  
 備前 桃山時代 16世紀  
 根津美術館蔵

【3】(右下)  
 重要文化財  
 錆絵染付金彩絵替土器皿 (5枚のうち)  
 おがたけんざん  
 尾形乾山作  
 江戸時代 17-18世紀

[展示室2 (書画)]  
**京派の粋<エスプリ> 円山四条派の絵画**

【4】(右)  
 南天双鳩図 呉春筆  
 江戸時代 18-19世紀  
 根津美術館蔵

【5】(左下)  
 南天双鳩図(部分) 呉春筆  
 江戸時代 18-19世紀  
 根津美術館蔵



[展示室5 (工芸)]  
**茶道具と名物裂・更紗**



【6】  
 重要文化財  
 ぶんりんちのいれ めいしらたま  
 文琳茶入 銘白玉  
 南宋-元時代 14世紀  
 さらさつみぬの  
 更紗包布  
 インド 17-19世紀  
 根津美術館蔵

■ 上記作品以外の画像をご希望の場合は、広報事務局へお問合ください。

その他の希望する画像:

[広報画像、取扱に関する規定]

- 広報画像の使用は「根津美術館」を紹介する場合に限ります。事前の申請・承諾なく二次利用いたしません。
- 広報画像を紹介する場合は、指定されたクレジットを併記します。
- 全図で使用します。トリミング、変形、部分使用、文字のせは無断で行いません。

「広報画像、取扱に関する規定」に承諾の上、画像申請を行います。

<個人情報取り扱いについて>

ご記入いただきました個人情報は、弊広報事務局からの情報配信や連絡など必要最低限のリレーションのために使用いたします。また、許可なく第三者に個人情報を開示することはありません。